

今週の為替相場見通し (2017年4月24日)

総括表		先週の値動き			今週と来週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		108.13 ~ 109.48	109.13	107.00 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.0603 ~ 1.0778	1.0726	1.0750 ~ 1.1000
(1ユーロ=)	(円)		114.86 ~ 117.81	116.94	117.00 ~ 122.00
英ポンド	(ドル)		1.2515 ~ 1.2908	1.2811	1.2500 ~ 1.2850
(1英ポンド=)	(円)	*	135.60 ~ 140.35	139.81	137.00 ~ 141.00
豪ドル	(ドル)		0.7492 ~ 0.7612	0.7549	0.7400 ~ 0.7700
(1豪ドル=)	(円)	*	81.49 ~ 82.96	82.30	81.00 ~ 85.00

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替営業第二チーム 山本 一暁

(1) 今週の予想レンジ: 107.00 ~ 111.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週と来週の見通し]

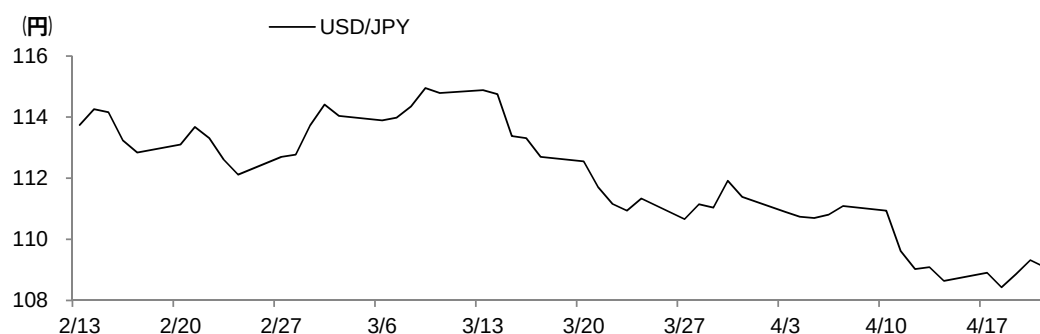
先週のドル/円相場は、週初に下落するも、週後半にかけては上昇した。週明け17日、108円台後半でスタートしたドル/円は、前週末の北朝鮮のミサイル発射実験を受け地政学リスクが高まったことを背景に円買いが先行。東京時間、108.70円台を走る200日移動平均線を下抜けるとドル売り円買いが更に強まり、一時108.13円と年初来安値を更新。しかし、北米時間にムニューシン米財務長官が長期的にはドル高を志向しており、また税制改革は年内に実現させると発言したことを受け米長期金利が上昇。ドル/円にはショートカバーが入り109円台を回復した。18日東京時間、為替の議論が棚上げされた日米経済対話の影響は限定的となるも、米株軟調推移や米長期金利低下を背景に戻り売り優勢の展開となり108.32円まで下落。19日は米長期金利の反発を受けてドル/円も108円台半ばから109円付近まで堅調推移。20日北米時間、パウエルFRB理事のボルカールール批判や黒田日銀総裁の量的・質的金融緩和(QQE)継続示唆、ムニューシン米財務長官の税制改革への意思表示などが軒並みドル買い円売り材料とされ、ドル/円は週高値となる109.48円まで続伸。21日東京時間、一段の買い材料がない中、109円半ばを抜けられないことを確認すると再び軟化。週末のフランス大統領選を控えた様子見姿勢が強まり海外時間でも109円台で動意薄く推移し、109円台前半で越週した。

今週および来週のドル円相場は、ショートカバーリスクがあるものの売り戻される展開を予想。23日のフランス大統領選(第一回投票)は順当にルペン、マクロン両候補が決選投票に駒を進めた。決選投票ではEU懐疑派のルペン氏は分が悪いとされていることからユーロ/円のショートカバーに連れられドル/円も一旦は上昇しよう。26~27日に開催される日銀金融政策決定会合では景気判断の上方修正などが見込まれており、先行きの緩和縮小の思惑が強まる可能性はある。但し、足元の円高基調を受けて緩和策の強化を示唆する公算が大きく、ドル円相場にはショートカバーから一時的に上昇圧力がかかるだろう。このようにフランス大統領選や日銀金融政策決定会合、及び米経済指標の強さを受けてショートカバーが入ると見込まれるが、北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりやトランプ政権への期待感剥落などからドル/円は売り戻され、足元の下落基調が続くと予想する。なお、今週の経済指標は27日(木)米3月耐久財受注速報、28日(金)米1~3月期GDP速報などが注目される。来週は5月1日(月)米3月PCEデフレーター、米4月ISM製造業景気指数、3日(水)米4月ADP雇用統計、米4月ISM非製造業景気指数、5日(金)米4月雇用統計などが発表される。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/17~4/21)の値動き:

安値 108.13 円 高値 109.48 円 終値 109.13 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 島田 貴章

(1) 今週の予想レンジ: 1.0750 ~ 1.1000 117.00 ~ 122.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週と来週の見通し]

先週のユーロ相場は英総選挙前倒し実施を受けた連れ高の後、週末の仏大統領選を控えレンジ内で推移。週初17日、ユーロ相場は対ドル1.06台前半にてオープン。週安値となる1.0603をつけた後は、週末にミサイル発射実験を断行したものの結果として失敗に終わった北朝鮮情勢を受け、リスクオフ相場の巻き戻しから対円でユーロ買い戻しが進行、対ドルでも1.06台半ばまで上昇。翌18日、メイ英首相が緊急記者会見にて6月に総選挙を前倒しにする意向を発表すると、英政権基盤の強化期待から英ポンドが上昇する中でユーロも連れ高となり、ユーロ相場は1.07台前半まで上昇。週央19日、発表されたユーロ圏3月消費者物価指数(HICP、確報値)が前年比+1.5%と2月(同+2.0%)から鈍化を示したことやエストニア中銀総裁が「ECBの政策変更には裏付けとなるデータがさらに必要」との見解を示したことを背景に1.07ちょうど近辺まで下落。翌20日、仏大統領選を巡る世論調査においてマクロン候補優勢との結果が示されたことを材料にユーロ相場は上昇し、週高値となる1.0778をつける。しかしその後は、フランスで発生した発砲事件を受けて1.07台前半まで下落。週末21日、週末の仏大統領選第一回投票を控えユーロ相場は1.07近辺での揉み合い推移となり、1.07台前半水準にて越週した。一方、対円では115円ちょうど近辺にてオープン。対ドル同様に17日に週安値114.86円をつけた後、20日に高値117.81円をつけ、117円ちょうど水準にて越週した。週明け24日、東京時間朝時点の出口調査により仏大統領選決選投票にはマクロン候補およびルペン候補が進出することが確定的となり、ユーロ相場はギャップアップしてオープン。対ドル1.09ちょうど近辺、対円120円ちょうど近辺にて推移している。

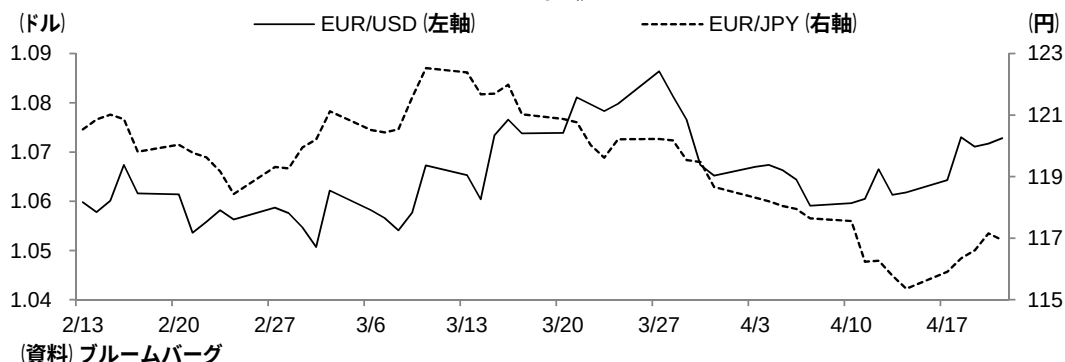
今週および来週のユーロ相場はやや軟調な展開を予想する。注目された仏大統領選第一回投票ではマクロン候補およびルペン候補の決選投票進出が決定された。決選投票においてはマクロン候補優勢という情勢であり、為替市場においてはルペン候補勝利ならびに仏のEU離脱リスクの後退を十分に織り込んだとの印象を受ける。ただし、優勢といえども2週間後の決選投票までの期間は世論調査などの報道にユーロ相場は左右されることとなろう。また、今週27日(木)にはECB理事会が開催される。前回3月会合がタカ派色の強い内容であっただけに注目が集まるが、足許の物価動向や要人発言等を振り返ればフォワードガイダンス文言変更などの更なるタカ派化は時期尚早との印象である。明確なタカ派姿勢強化が見られない限りにおいては相場の反応は限定され、むしろ失望によるユーロ軟化の可能性が高いように思われる。従って、メインシナリオとして仏大統領選挙におけるマクロン候補勝利の確度が高まる中でユーロ相場は材料出尽くしによる軟調推移となることが予想され、場合によってはECB理事会が下落を助長する展開を予想する。なお、そのほかの重要な経済指標・イベントとしては、今週28日(金)に仏1〜3月期GDP、翌週5月3日(水)にユーロ圏1〜3月期GDP、7日(日)に仏大統領選の決選投票が予定されている。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/17~4/21)の値動き:

(対ドル) 安値 1.0603 高値 1.0778 終値 1.0726

(対円) 安値 114.86 高値 117.81 終値 116.94



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2500 ~ 1.2850 137.00 ~ 141.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週と来週の見通し]

先週の英ポンド相場は、主要通貨に対して全面高。ただし、値動きがあったのは18日だけで、同日以外は概ね横ばいにとどまった。週明け17日は英連休の最終日で、市場参加者の動意も薄くポンドは横ばい。連休明けの18日、メイ首相が突然解散総選挙を発表(翌日の下院で正式に決定)、前後してポンドは一旦売り込まれたものの、すぐに反発、ドル、円、ユーロなど主要通貨に対して全面高に振れた。ポンド売りの先行は政局不透明感を嫌った値動きで、その後続いたポンド全面高は、世論調査における与党保守党の圧倒的優位を背景に、より安定した政権樹立の可能性を好感した反応と考えられた。ポンドは、対ドル、対ユーロで1.2515、0.8512まで下押し、1.2908、0.83145まで急反発と、それぞれこの局面で週の安値と高値をつけ、対円でも136.13への下押し後、同日中に139.98まで急反発した。しかし、その後ポンドは方向感を欠いた膠着へ。21日発表された英3月小売売上高は明らかに失望を買う低迷と言えたが、ポンドの反応は乏しく、僅かに軟調に振れた程度で、そのまま週の取り引きを終えた。

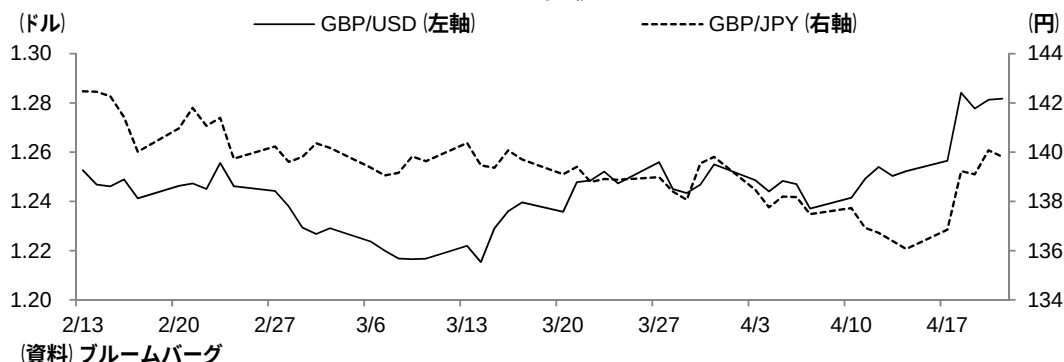
今週の英ポンド相場は、神経質な様子見から、反落を予想。18日のポンド急反発は安定政権の樹立を期待した値動きと考えられたが、安定政権樹立が単純に英経済・ポンドに好材料とは限らない。従来の発言から判断して、メイ首相は安定した政権基盤を背景に、より強硬的なEU離脱交渉を進める可能性が高い。仮に、英が離脱交渉により強硬な態度で臨むのであれば、どれだけ政権が安定しても、それをポンド買い要因と読むには無理があるのではないか。この点、メイ首相周辺からは、移民の受け入れに従来よりも柔軟な姿勢を示すとの観測も一部で聞かれ、与党保守党の選挙公約を確認するまでは、安定政権が英経済・ポンドに吉と出るか凶とでるかは判断できない。また、選挙戦の争点も、メイ首相はEU離脱交渉に向けての全権信任を問う姿勢を前面に打ち出したものの、最大野党労働党は国民の福利厚生と平等な社会の実現と、まるで階級闘争のようなかみ合わない議論をしている。EU離脱を前面に挑戦したのは自由貿易・関税同盟を伴わない強硬離脱回避を訴える自由民主党だけで、スコットランド国民党は総選挙を通じてスコットランド独立投票やり直しの是非を問う姿勢を明確にしている。ポンドが一定の方向感を確立する前に、世論の動向と照らし合わせながら、今後各政党が明らかにする選挙公約を精査するための時間が必要になろう。英3月小売売上高の伸び悩み、実質賃金の落ち込みからくる消費抑制を裏打ちする内容になってしまったが、そういう視点で28日(金)の英1~3月期GDP速報値には注目。これまでに明らかになった月次統計によると、内需だけでなく、外需、生産もはかばかしいとは言えないからだ。その他、各種景況感指数(2日(火)に製造業、3日(水)に建設業、4日(木)にサービス業の各4月PMI)や住宅関連指数(ネーションワイドの4月住宅価格指数、英3月住宅ローン承認件数(4日(木)))なども、目先は、弱めの数字に過敏に反応(ポンド売り、英株売りなど)する可能性が警戒される。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/17~4/21)の値動き:

(対ドル) 安値 1.2515 高値 1.2908 終値 1.2811

(対円) 安値 135.60 高値 140.35 終値 139.81



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 0.7400 ~ 0.7700 81.00 ~ 85.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週と来週の見通し]

先週の豪ドル相場は上値の重い展開。週初17日に対ドルで0.75台後半、対円では82円台半ばでオープン。良好な中国1～3月期GDPの結果や株高などを背景に豪ドル買いが進行し対ドルで一週高値となる0.7612まで上昇。しかし、ムニューシン米財務長官の「強いドルは長期的に良いことだ」との発言が伝わるとドル買いが進行し0.75台後半まで戻された。対円ではドル/円の上昇に連れ82円台後半まで上昇した。18日は豪準備銀行(RBA)議事要旨の内容がハト派と捉えられたことに加えて、鉄鉱石価格が大幅下落する展開になると豪ドル売りが進行し、対ドルで0.75台前半まで値を下げた。対円では前日の流れを引き継ぎ一週高値となる82.96円まで上昇する局面もあったが、その後は豪ドル売りとなり81円台後半まで下押しされた。19日も豪ドル売り優勢の展開が継続する中、米週間ガソリン在庫統計において予想外の増加が示され原油価格が大きく下落すると、対ドル・対円でそれぞれ週安値となる0.7492・81.49円まで値を下げた。20日は仏大統領選挙の世論調査においてマクロン候補が優位であることが伝わったことや米国税制改革に対する期待感から株高が進行すると豪ドルが買われ対ドルで0.75台前半まで上昇した。21日は仏大統領選第一回投票を23日に控え全般的に小動き。対ドルで0.76台半ば、対円では82円台前半で越週した。

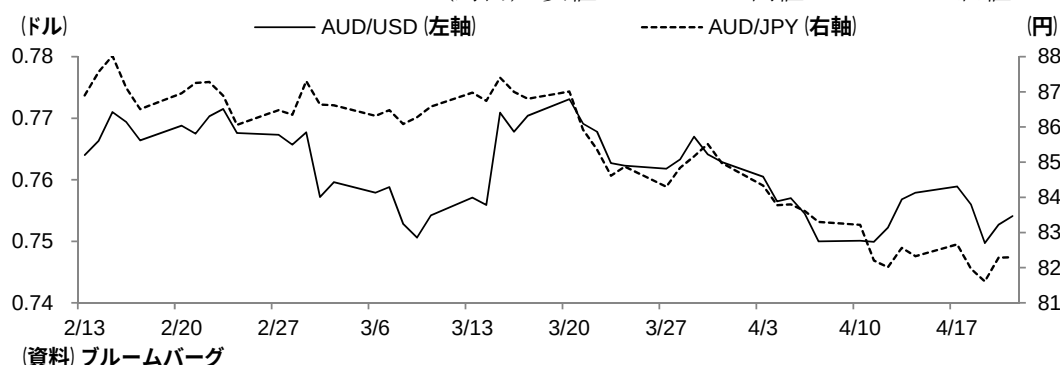
今週および来週の豪ドル相場は上値の重い推移を予想。先週公表されたRBA議事要旨では住宅指標と家計債務を注視する姿勢が示され、早期の緩和縮小期待を後退させる結果となった。今週は26日(水)の豪1～3月期消費者物価指数(CPI)の結果に注目が集まるが、緩和縮小期待が高まらない中ではよほど良好な結果とならない限り、豪ドル買いの反応は一時的なものとなるだろう。また、シリアや北朝鮮を巡る地政学リスクにも引き続き警戒が必要。25日(火)には朝鮮人民軍創建85年を迎えるため、北朝鮮の挑発行為に対する警戒感が高まっている状況。今月15日の金日成生誕祭の翌日にミサイル発射実験が行われたことから25日前後には緊張感の高まりからリスク回避の動きが強まることが想定される。また、仏大統領選挙第一回投票では予想通り、マクロン候補とルペン候補が決選投票に進出を決定。週明けは一旦リスクオンの流れとなっているが、ルペン候補勝利リスクはまだ拭いきれる状況とは言いがたいだろう。地政学リスクや政治リスクを背景に、リスクセンチメントに左右されやすい通貨である豪ドルは買われづらい展開となると予想する。

(3) 先週までの相場の推移

先週(4/17～4/21)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7492 高値 0.7612 終値 0.7549

(対円) 安値 81.49 高値 82.96 終値 82.30



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。